

尼崎市長あて

尼崎市市民提案制度 実施結果報告書

尼崎市市民提案制度実施要綱に基づき、次のとおり報告します。

1 提案概要

団体名及び 代表者氏名	一般社団法人 Challengers Football Club (SEKISUI チャレンジャーズ) 代表 鍛次 茂
事業名	アメフトを通じたスポーツのまち尼崎の実現
事業所管課	教育委員会事務局 スポーツ推進課
事業内容	・小学生を対象としたフラッグフットボール教室を実施するとともに、チームの強みをいかした社会教育の講座を行う。 ・5月から2月にかけて計9回実施し、のべ198人の参加を得た。(詳細別紙) ・3月にスピンオフ企画として、新体育館を会場に、武庫地域全体の小学生を対象とした体験教室を行う。

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A (よくできた)、B (まあまあできた)、C (あまりできなかった)、D (まったくできなかった)
- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画(準備)段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	A	A
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	A	A
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	A	A
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	A	A
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	A	A
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	A
その他(契約締結後にあらかじめ任意で設定する項目、項目数は不問)		
(1)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	参加者のうち、アンケートで「スポーツが身近になった」「新たにスポーツを始めた」と回答した者の割合
	測定方法	参加者へのアンケート等
	結果	100%（最終回に挙手にて確認）（19人） この他、「スポーツ以外でも挑戦することを意識し、実際に挑戦した」旨の意見など。

3 総合評価

協働側面の評価

引き続き、体制面に不安を抱えながらの実施であったが、市に加えて新たな指導者による関わりも得ながら進めることができた。

事業効果の評価

1 地域へのアプローチ、地域との協働

<良かったこと>

- ・参加者の生活圏内である商店街の役員に市と共にアプローチし、教室について説明の上、尼崎ポウルポスターの掲出協力を得られ、昨年度よりも広域的な広報活動を行うことができた。
- ・当該イベントは約 1,500 人の市民に観戦され、教室参加者からは、「こんなチームの人と直接フラッグができてうれしい」という声が聞かれ、シビックプライド形成の一助となれている実感を得られた。
- ・新たに、隣接する武庫小学校からも数名の参加を得られた。
- ・新たに商店街にある尼崎信用金庫との連携を行い、2回に渡り「お金寺子屋」を開催した。保護者からは、スポーツに加えて社会勉強の機会が得られる点を評価された。

<反省点>

- ・当初予定していた武庫まつりへの参加は、開催場所としていた新体育館の建設が遅れ、実現できず、自治会への参画もかなわなかった。手法にとらわれず、入り込んでいくべきであった。
- ・他校への具体的なアプローチをすることができなかった。

2 自立した教室運営、教室の質の向上

<良かったこと>

- ・新たに教室経験者を指導者に迎え、より体系的な指導を行うことができた。
- ・受益者負担を課すことに不安はあったが、内容と比べて低額であることや、都度払いとしたことで参加しやすい旨の評価を得られた。
- ・安全な活動の確保や施設使用面で、学校から自立した運営を確保することができた。

<反省点>

- ・子どもたちに明確な目的や、具体的な目標設定の意識を持たせるため、選手カルテを作成し配布した。また、試合の実施を目標とした。しかし、カルテは運営体制や幅広い学年への対応が困難で頓挫してしまった。また、試合を行うには至らず、例月の「お楽しみ会」的な位置づけから脱却できなかった。

3 その他

<良かったこと>

- ・教室に関わったチャレンジャーズの選手が、公式戦等で子どもたちから名指しで応援を受け、チーム内でこの取組の意義が再認識されるなど、地域に根差したチーム運営を進める上で、基礎作りの一助となった。

総評

<チャレンジャーズ>

会費を徴収して行うことや、学校の協力から自立した運営を行う点に不安があったが、概ね良好な結果が得られ、初年度に掲げていた「中学生部活動の地域移行」を見据えて、クラブ運営をしていく上での基礎固めができた。

また、チームの試合を見に来てくれた子どもたちが、チームを、そして尼崎をより好きになっていることを実感し、まちづくりの一員となれていることを実感することができた。

一方で、昨年度よりも地域の巻き込みや面的なアプローチを意識した活動を行ったものの、どうしても体制的な脆弱性を克服できず、半ばで終わってしまった。特に、地域の巻き込みや社会教育、シビックプライドに資する取組についてアイデアは出ていたが、どうしても目先の教室運営が優先され、歯がゆい結果であった。

協働面では、引き続き市において、武庫の里小学校やその他各校との調整、地域団体とのつなぎなどの支援を受けながら進めることができ、保護者の安心感などにつながった。

<尼崎市>

フラグフットボールは学習指導要領にも取り上げられている競技であり、今年度は当該校で体育の授業でも取り上げられるなど、学校現場での認知も進み、学校の先生にとって指導のメニューの充実につながったことは意義のあることと認識している。

市の反省点としては、例えば教員研修でフラッグを取り上げてもらい、この教室を視察対象とするなど、教育委員会内部での横展開が十分に行えなかったことや、他校を巻き込んだ展開を図る上で互いに体制が追いつかず十分にできなかったといったことがある。

今年度は中学校部活動の地域移行について大きな方針を打ち出したところである。方針では、これまでにない競技など、多様な選択肢から子どもたちが選べることを重視しており、この教室もそのひとつとして注目している。取組を進めるにあたって今後も連携を図っていきたい。

(実施結果報告に対する審査会委員意見)

- ・まだ裾野を開拓するには至っていないと感じるので、今後も事業を継続してほしい
- ・令和7年度の実施内容が風呂敷を広げすぎているように感じる。保護者目線で見ると不透明に感じる部分が多い。1年間でできることは限られているので、方向性をしっかり固めてから事業を進めると、かなりいいモデルになるのではと感じる
- ・他の活動も地域クラブとして認定していく中で、なぜ本事業をモデルとするのかは今後問われるところである。マイナー性よりも尼崎ならではの独自性がポイントになると思う。その理由をもう少し検討してほしい

3 収支結果（協働事業のみ）

収入の部				
科目	積算金額（単位：円）		内容及び算出根拠	
	予算額	決算額		
市補助金	292,000	215,674		
参加料	150,000	86,500	参加料@500円×173人	
協賛、チーム負担	47,000	93,357		
収入合計	489,000	395,531		
支出の部				
科目	積算金額（単位：円）			内容及び算出根拠
	予算額 (市補助金)	決算額		
		計	うち市補助金	
施設利用料	65,000 (65,000)	0	0	試合形式のイベントに係る施設使用料
広告宣伝費	78,000 (78,000)	100,507	85,910	チラシ（3月スピンオフ体験会）
消耗品	57,000 (57,000)	76,614	58,354	応急セット、児童用飲料等
保険料	34,000 (34,000)	28,410	28,410	スポーツ安全保険
人件費	120,000 (58,000)	120,000	43,000	@3,000/人/回×40人
負担金	135,000 (0)	70,000	0	X リーグホームゲーム観戦招待代金
支出合計	489,000 (292,000)	395,531	215,674	補助額に対する人件費割合： 対見込み比 19.9%